

2018年(平成30年)5月 日

西岡 真一郎小金井市長 様

名勝 小金井桜の会  
会長 小沼 廣和  
NPO 法人小金井桜を復活する会  
理事長 日並 洋一

名勝小金井桜復活モデル地区(新小金井橋から関野橋)フェンス内における  
ヤマザクラ以外・枯死した植樹苗・枯死寸前の古木の植替えについて

常日頃、名勝小金井桜復活事業にご尽力いただき感謝申し上げます。

東京都並びに貴職が設定した名勝小金井桜復活のための「モデル地区」は、名勝に相応しいあるべき「ヤマザクラ並木」の姿を内外に提示するモデルであります。

添付経過文書の通り、2015年から「樹勢調査報告書」「植え替え要請文書」等で、再三にわたり貴職に本件について植え替えを要請しておりましたが、何ら処置がされず現在に至っております。

このことは、私たち市民と行政との協働事業として『小金井桜の復活』を図るうえで、その信頼関係を損ねる事案といっても過言ではありません。

よって、小金井桜復活モデル地区内に所在する、下記10本の植え替え、補植、伐採補植事業を、「名勝小金井桜」の管理者である東京都教育委員会と調整のうえ、平成30年度中に実行される強く要望します。

#### 記

1. ヤマザクラ以外の後継樹(4本)  
**N17番・N20番・N26番・S27番**
2. 枯死した後継樹植樹苗(2本)  
**N30番・S35番**
3. 枯死寸前の小金井桜古木(4本)  
**692番・695番・720番・722番**

なお、調整結果を文書で回答くださるようお願いいたします。

参考までに、本件に関わる現況の調査結果、これまでの経過文書等を参考添付します。

笠森稲荷神社の寒桜のサクランボから発芽したと思われる桜苗を  
 小金井公園桜守の会から小金井市に寄贈され  
 2012年(平成24年)2月にモデル地区に植樹された  
 ヤマザクラ以外の小金井桜後継樹4本

2018年3月20日:小沼調査

**カンザクラ/寒桜とは**

バラ科の落葉高木。高さ4~6メートルになる。葉は倒卵状楕円(だえん)形、長さ4~10センチメートル、先は急に尾状にとがる。2~3月ごろ、葉の出る前に、径2.5~3センチメートルの淡紅色の5弁花が散形または散房状になって咲く。カンヒザクラとオオシマザクラの雑種といわれる。花期の早いサクラで、暖地の庭木に適する。[小林義雄]



**笠森稲荷神社の寒桜**



笠森稲荷神社 超早咲き桜  
 2017年2月25日開花  
 2018年3月12日満開  
 ピンク色の濃い花びら

小金井市東センター東側に所在する笠森稲荷神社の鳥居横に植栽されている寒桜古木の自然交配によるサクランボを採取し、小金井公園桜守の会が育成した桜苗を平成24年(2012年)2月に小金井市に寄贈された物と思われる。2018年3月12日に現地にて調査・鳥居脇の寒桜古木がちょうど満開であり、花弁はピンク色の濃い状態であった。

**N17番**



**N17番**

- ・平成24年(2012年)2月植樹
- ・3年生物実生苗
- ・小金井公園桜守の会寄贈
- ・笠森稲荷神社の実生苗
- 【カンザクラ(寒桜)と  
 他のサクラとの交配種?】
- ・超早咲き
- 2017年2月25日開花
- 2018年3月15日開花
- ・非ヤマザクラとして要植え替え

2018年3月17日5分咲き 3月15日開花

## N20 番



2018年3月17日満開



3月6日開花



## N20 番

- ・平成 24 年（2012 年）2 月植樹
- ・3 年生物実生苗
- ・小金井公園桜守の会寄贈
- ・笠森稲荷神社の実生苗

【カンザクラ（寒桜）と  
他のサクラとの交配種？】

- ・超早咲き

2017年2月25日開花

2018年3月06日開花

・非ヤマザクラとして要植え替えが必要

## N26 番



2018年3月7日7分咲き



3月10日開花



## N26 番

- ・平成 24 年（2012 年）2 月植樹
- ・3 年生物実生苗
- ・小金井公園桜守の会寄贈
- ・笠森稲荷神社の実生苗

【カンザクラ（寒桜）と  
他のサクラとの交配種？】

- ・超早咲き

2017年2月25日開花

2018年3月10日開花

・非ヤマザクラとして要植え替えが必要

## S27 番



2018年3月17日満開



3月06日開花



## S27 番

- ・平成 24 年（2012 年）2 月植樹
- ・3 年生物実生苗
- ・小金井公園桜守の会寄贈
- ・笠森稲荷神社の実生苗

【カンザクラ（寒桜）と他の  
サクラとの交配種？】

- ・超早咲き

・2017年2月25日・開花

・2018年3月06日・開花

・非ヤマザクラとして要植替が必要

東京都水道局が策定した「玉川上水整備活用計画」（平成 21 年 8 月）並びに

小金井市が策定した『玉川上水・小金井桜整備活用計画』（平成 22 年 3 月）の基本方針に於いて

**ア 名勝区間におけるヤマザクラの並木を良好な状態で保存及び復活します。**

**イ 指定区間の距離が長いことなどを踏まえ、ヤマザクラの保護に当たっては、地元自治体や地元団体との協働により実施するように努めます。**

**ウ 緑の史跡空間として親しまれていること、樹木が環境や景観に貢献していることなどを考慮し、可能な限り、史跡の保全・ヤマザクラの保護と緑との調和を図ります。**

と謳っているので新小金井橋～関野橋間のモデル地区のヤマザクラ以外の桜は早急に植え替えすることが必要である。

# モデル地区における植替えが必要な枯死及び枯死寸前の 6 本

N30 番



- ・平成 24 年（2012 年）  
2 月植樹
- ・3 年生物
- ・2016 年枯死・伐採
- ・早急に補植する必要あり

S35 番



- ・平成 24 年（2012 年）  
2 月植樹
- ・3 年生物 実生苗
- ・2016 年枯死・伐採
- ・早急に補植する必要あり

692 番



- フェンス内  
ヤマザクラ古木  
**枯死により伐採**

695 番



- フェンス内  
ヤマザクラ古木  
**枯死により伐採**

720 番



- フェンス内  
カスミザクラ古木・枯死寸前  
中咲き

722 番



- フェンス内  
カスミザクラ古木・枯死寸前  
中咲き

## これまでの行政との折衝経過等

### 東京都教育庁との懇談会メモ

1. 日時 平成 27 年 12 月 8 日 午前 10 時～11 時 30 分

2. 場所 小金井市本町暫定集会施設

3. 出席者

都教育庁 地域教育支援部管理課： 渡辺課長代理（文化財保護係長）、安蔵氏

小金井市 生涯学習課： 石原課長、伊藤氏、高木氏

名勝小金井桜の会： 石田会長、植竹、岩間

1. 会合の趣旨確認

この会合は教育庁の担当者も頻繁な異動がある中で、従来の打合せ事項を含めた認識の相互確認をし、顔合わせを兼ねたざっばらんな意見交換の場とすることを確認。

2. 小金井市からの報告事項

関野橋～梶野橋間の第 2 期工事(今年度分)について、都水道局より「地元民の強力な要望を受け工事の遅延を避けるため、止む無く左岸のケヤキ 3 本を残すことになった。ただしこの残存ケヤキは強剪定をおこなった」との連絡があった由。

3. 懇談要旨

1) 名勝小金井桜と教育庁

玉川上水整備活用計画（水道局主導で作成）について教育庁が見解を異にするとの噂も耳にするがとの問いに対し、

- ①教育庁は玉川上水整備活用計画に最初からかかわっており、途中で方針を変更したことはない。今後もこの計画に準拠していく。
- ②現状は“欠損部補植”方式になっているが、これはモデル地区の結果検証が終わってない中で前に進めるため繋ぎとしてやっている。名勝小金井桜を往時の景観に近づける努力は今後も継続するが、当面は「先細りにしない」のが精一杯。
- ③関係 4 市の間で軽重はあるが、小金井市域については重点的にすすめる。小平市域の補植については、その後も都と市で協議しているが進展していない。
- ④関野橋～梶野橋の次の整備目標は小金井橋～新小金井橋間。

2) 苗木について

苗木育成は手間と時間を要し、更にはせっかく育てても植樹できずに廃棄を余儀なくされ、中期的な植樹計画がないと苗木育成のモチベーション維持が困難との訴えに対し

- ①苗木育成に関する桜の会側の説明については、留意する。
- ②年間植栽数は 20 本程度を考えている
- ③植栽済みの異樹種苗（枯死木を含め 7 本）の植替えは検討する
- ④小金井市域外分の苗木の育成については（小金井市で対応するのは難しく）、他市の意向次第。

3) 維持管理について

- ①昨年までの局所的管理としての発注を面的管理の仕様に改める
- ②教育庁で実施する維持管理と水道局の実施する管理が有機的に組み合わせられるよう配慮する
- ③維持管理上不備がある場合は市を窓口として教育庁に繋ぐ
- ④日常的な維持管理へのボランティアの活用についての提案に対して積極的な反応はなかった。

写し： 東京都水道局 経理部用地担当課長 小島 良之 様  
 小金井市長 西岡 真一郎 様  
 東京都教育庁 管理課文化財保護係長 渡辺 聡 様  
 小金井市 生涯学習課長 石原 弘一 様

平成28年1月21日  
 名勝小金井桜の会  
 会長 石田 精一

**名勝小金井桜 モデル区間に植樹されたヤマザクラ以外の異種樹等の  
 植替え実施について（要請）**

日頃から、名勝小金井桜の復活を目指す当会の活動に、ご理解とご協力をいただき有難うございます。  
 現在、今年度の小金井桜整備計画（関野橋～梶野橋間）が進行中で、植樹する名勝小金井桜の後継樹として相  
 応しいヤマザクラ苗木を育成している当会としましても、計画に協力すべく準備をしているところです。  
 さて去る1月16日の当会月例会で、苗木の出荷までの段取りについて打合せましたが、その際、昨年度実施できな  
 かった、モデル区間（新小金井橋～関野橋）に移植され、その後の調査でヤマザクラ以外の異種樹であることが判明した苗  
 木及び枯死木（合計8本、詳細は下記）の植替えについて、異種樹苗の成長に伴う作業負荷の増大等も考慮すると、  
 是非とも今冬期に植替えを実施するよう要請すべきとの決議がなされました。  
 本件につきましては、昨年度の段階で、その内容と必要性について関係部署間で合意されていたものと認識しております  
 ので、玉川上水整備活用計画のモデル区間を真にヤマザクラ並木復活の“モデル”区間足らしめるための当然の措置という  
 側面のみならず、当会の重ねての要望という点にもご配慮いただき、関野橋～梶野橋間の植樹とあわせて8本の植替えを  
 是非とも今年度中に実施いただきたくお願い申し上げます。  
 なお恐縮ながら、苗木の植樹は2月中に実施すべき（活動期に入ってから移植は不適）であることを考慮し、ご検討  
 結果を2月19日(金)までに文書にてご回答いただきたく、併せてお願いいたします。

記

植替えを要する異種樹 計4本 左岸 3本（N17・N20・N26：カスミザクラ）  
 右岸 1本（S27：カスミザクラ）  
 植替えを要する枯死木 計4本 左岸 3本（N9、N40、N48）  
 右岸 1本（S34）

以上

本要請文に対する文書回答はなかった。

植替えを要する枯死木の内 **N40/N48、S34** については平成28年2月に植え替えが実施された。

**N9** については平成30年3月現在実在し、順調に生育しているので要請文での枯死判定は誤りと思われる。

<b>N40・N48</b>	平成27年度	平成28年2月	3年生物・実生	小金井桜	早咲き	緑芽葉
<b>S34</b>	平成27年度	平成28年2月	3年生物・実生	小金井桜	早咲き	赤芽葉
<b>N9</b>	平成22年度	平成23年2月	3年生物・実生	桜川桜	早咲き	赤芽葉

名勝小金井桜 樹勢調査結果に基づく日常管理についての要望事項

2017. 10. 10

名勝小金井桜の会

1. 枯死木及び倒壊の恐れのある危険木（幹・大枝を含む）の迅速な伐採・剪定の実施  
今年の枯死木 12 本を含む 25 本程度の危険木がある。
2. モデル区間の異種樹 4 本の植替え  
宿題になっているヤマザクラでない N17、N20、N26、S27 の植替えが必要。
3. 個体識別ナンバープレート欠落部分の再設置  
ナンバープレート欠落樹が約 35 本ある。
4. 病虫害・キノコの害を受けている桜樹のケア  
全体的にコスカシバの病虫害や、ベッコウタケ等のキノコの害を受けている古木が多い。
5. ヒコバエや枯れ枝の処理  
ヒコバエが多数でている桜樹、枯れ枝が放置されている桜樹が多い。
6. 定期的な下草刈りの実施  
特にフェンス内上水堤（水道局）と桜樹周囲（教育庁）での連携と、ノカンゾウの開花時期に配慮した適切な実施時期を調整いただき、年間計画を提示願う。
7. 新規植樹苗のケア  
新規植樹苗については最低 1 年間の毎月のパトロールと、適切な施肥、水遣り、下草処理が必要。
8. 緊急連絡ルートの確立
9. 定期的な連絡会の開催

以上

(案)となっているので発送したか否か不明

平成29年1月11日

小金井市教育委員会  
生涯学習課長 石原 弘一 様

名勝小金井桜の会 会長 石田精一

名勝小金井（サクラ）復活事業について（お願い） （案）

新年あけましておめでとうございます。

平成26年から開始された小金井市の関野橋～梶野橋間の補植計画はいよいよ最終段階を迎えようとしております。種々の障害のある困難な事業をこれまで着々と実施されてこられましたことに心から感謝申し上げるとともに、今年度の計画が完了後もさらなる発展のための次の段階、小金井橋～新小金井橋の事業計画の実現を大いに期待し切望しております。

さて名勝小金井桜の会では現在進行中の関野橋～梶野橋間の補植計画に関連して下記3項目を追加実施して頂きたいと考えております。よろしくご検討くださいますようお願い申し上げます。

#### 記

1. 異樹種苗の植え替え

かねてお願いしている極早咲きの桜苗4樹の植え替えを本年度中にぜひ実行して頂きたい。

2. 平右衛門橋傍への記念樹植樹

今年は川崎平右衛門没後250年の年に当たります。昨年完成した玉川上水の「平右衛門橋」の近傍に記念樹として桜苗を植樹することは時機をえたものと考えます。関野橋～梶野橋間の植樹とあわせてぜひ実現するようご検討をお願いします。

3. 小金井橋北端上流部の記念樹の保全

小金井橋周辺4隅に植えられた4本の記念樹の内、北端上流部の北上産記念樹（N62）は周辺環境の整備不良に加えて手入れが行われずに放置されたため、きわめて貧弱な生育状況となっており、速やかに適切な手当てを行い養生する必要があります。

早急に専門家の診断と回復処置をして頂くようお願いいたします。

なお、本件についてはご承認いただければ弊社で対応する用意があります。

以上

## 2015年(第14次)樹勢調査結果速報

第4ブロック樹勢調査員 日並 洋一

猛暑の中の樹勢調査となった。永年の念願であった歩道橋が撤去され、8月1日に新たに架橋された「平右衛門橋」に集合し、新小金井橋～関野橋間の名勝小金井桜の現状を調査した。この間は“名勝小金井桜復活”のモデル区間と位置付けられ、フェンスの内側3年かけて96本の後継樹が植栽された区間である。復活のシンボリックな区間においても桜の管理者である東京都教育委員会の日常管理が我々の希望に沿った作業が行われず、夏草に覆われ、しかも植樹したヤマザクラ苗の成長に沿ったメンテナンスが行われず傷のついた苗木、薬の剪定が行われず未管理の苗木、十分な管理が行われず枯れてしまった苗木等、痛々しい姿を露呈していた。また従来からの古木においては、キノコ類がはびこり名勝指定されている小金井桜とは言い難い姿で、この区間を復活のモデル区間と言っている東京都並びに小金井市の見識を疑う悲しい現状であった。他の区間に“欠損箇所”に補植”と称して植えられた小金井桜の後継苗木についても同様な現状ではないかと推測され、郷土の大事な文化遺産としての小金井桜を次代に適切に継承して行く我々の願いは、前途多難であるというのが素直な感想であった。全体の調査結果は昨年と同様であり、雑草刈りは5月、7月、9月、の年3回行うとともに、都水道局、都教育庁、小金井市が別々に実施しているのを一本化すべきである。

## 2016年(第15次)樹勢調査結果速報

第4ブロック樹勢調査員 小沼 廣和・日並 洋一

2016年7月20日午前10時から12時の間、我々4班は日並さんと熱い中モデル地区を中心とした名勝小金井桜の「樹勢調査」を行った。この新小金井橋から関野橋間は、小金井桜復活のモデル地区であり名勝小金井桜のヤマザクラ並木を郷土の遺産として次代に引き継ぐための「あるべき姿」を内外にお見せするモデルとして管理者である東京都及び小金井市が中心となって日常の生育維持管理を行っているはずのものである。しかしながら、毎年の樹勢調査のたびに指摘し、改善要請をしているにもかかわらず桜の成長を阻害する下草の伐採は連携がとられずバラバラの管理がされ、植栽した幼桜根本の雑草の伐採は6月中旬に根元1m四方がきれいに伐採されたと思ったら野カンゾウの花が真っ盛りになり散策する人を楽しませている最中の7月初旬に北側五日市街道沿いの堤みの下草を野カンゾウの群生もとも写真のように綺麗に伐採された。しかしながら、南側堤は調査時7月20日には夏草が桜の苗木に覆いかぶさり、北側と南側のアンバランスな状況が露呈されていた。

野カンゾウの花が咲き終わった8月初旬になって南側は写真のように綺麗に下草を伐採されたが、今後下草の伐採は7月20日から31日の間にすべき。モデル地区の平成23年から3年間かけて植栽された小金井桜幼木の生育状態は、日常管理がなされず添木への補助縄が更新されず苗木の成長を阻害し無残な状態が見られ、成長に合わせた日常管理を身近にいる地域住民による維持管理の必要性を表す事例であり、小金井桜復活への「モデルケース」の悪例として、広く内外にアピールする必要性を感じた。小金井桜復活は、行政との協働事業として進めていくはずであった。また、平成23年に植栽し4年たったN18番は他の同年に植栽した桜との成長具合が著しく悪く、成長に合わせた施肥等の日常管理がされず栄養失調で瀕死の状況であることの事例として、植え替えを早急にすることを指摘したい。植栽した小金井桜幼木の成長状況については、どういう事情か解らないがN14番幼木の幹のひび割れが見られ、その原因について当会との協力関係にあるNPO法人東京樹木医プロジェクトのメンバーに調査を依頼しその原因解明を早急に実施する必要がある。S35番及び695番の小金井桜2本は、昨年見事の花を咲かせ、春には新芽が出て元気に成長していると思っていたが、この夏場に来て葉が2本とも茶色に変色し枯れる寸前の状態であった。何らかな土壌不良による原因が考えられるが早急に調査が必要である。

最後に、モデル地区に植栽した桜のうちヤマザクラ以外の桜の幼木がN17、N20、N26、S27の4本を今年の植栽時に植え替えを行うとともに、他の枯死及び成長不良であるN18、N30、S35、フェンス内側に植栽され、すでに枯死状態にある小金井桜の古木である756・740・722・720・714・695・692の合計14本を今年度のモデル地区に補植する必要がある。

関野橋から梶野橋間にかけて、野カンゾウが群生し、今も盛りと散策者の目を楽しませている最中の7月6日、無残に根こそぎ伐採されてしまった事件を記して今回の樹勢調査雑感を締めくくりたい。

## 2017年（第16次）樹勢調査結果 感想

第4ブロック樹勢調査員 小沼 廣和・日並 洋一・杉本和子

2017年7月18日午前9時30分から11時、真夏の太陽と蒸し暑さの中、関野橋から新小金井橋間の名勝小金井桜の「樹勢調査」を行った。この第4ブロックは名勝小金井桜復活のモデル地区でありヤマザクラ並木を郷土の遺産として次代に引き継ぐための「あるべき姿」を内外にお見せするモデルとして管理者である東京都及び小金井市が中心となって日常の生育維持管理を行っているはずのものである。しかしながら、毎年の樹勢調査のたびに指摘し、改善要請をしているにもかかわらず桜の成長を阻害する下草の伐採は連携がとられずバラバラの管理がされ、相変わらず下草が繁茂する状態であった。昨年指摘したノカンゾウの花が満開の時期の水道局の下草刈りは延期され、我々の要望が叶ったことは良しとするが、それ以外の雑草の繁茂はすさまじいものであった。下草の伐採は7月末からしてほしい、日常管理業者の定期的なパトロールがされておらず、植樹した後継樹の添木支柱への補助縄が春先から切れた状態で放置され、何か月も管理不足であった。我々が永年主張している地元市民団体に因る維持管理でなければ解決しない。



また相変わらず、植樹した後継樹への雑草や弦による被害は目を覆うばかりであり、とりわけ葛の弦は非常に頑固で強靱であり、植樹した桜自体を枯らしてしまう脅威を感じその場で刈り取りを実施した。



昨年の調査で指摘した、小金井公園桜守の会が小金井市に寄贈した、ヤマザクラと寒桜の交配種とみられる2月下旬に超早咲きで開花するN17・N20・N26・S27の植替えを今年の植栽時に早急に実施するとともに、昨年指摘し未処置であるフェンス内の枯死したN30、S35、古木で枯死状態及び伐採済みの722・720・695・692の合計10本を今年度の植樹事業に追加して補植してほしい

最後に、嘉永3年(1850)の補植の際に下田半兵衛により関野橋袂に建てられた「桜樹接種碑」には『百年余がたち老木化が進んだので、村むらで桜の苗木を持ち寄り、それぞれの持ち場に数百本を植えました。桜樹が永久に植え継がれ、保護されことを願って建てたものです。』

とあります。是非先代の願いを私たちも引き継ぎたいと願っています。

